

防止へ結成

利点紹介

明倫中の生徒が「反射材普及」署の協力で事故発生状況や、制作。校内放送で全校生徒に

(近藤洋平)

HFTは総合的な学習で安全推進を学ぶ3年生15人が先月30日に結成。福井南署の協力でビデオのシナリオづくりに取り組み、21日に同校視聴覚室で撮影を行った。

ビデオでは過去5年間の交通事故死事故件数をグラフにしたパネルで「毎年年末にかけて増える傾向がある」「午後4時から8時が最も多く発生する『魔の時間帯』」と説明。「事故に遭わないためには反射材を身につけよう」と訴えている。

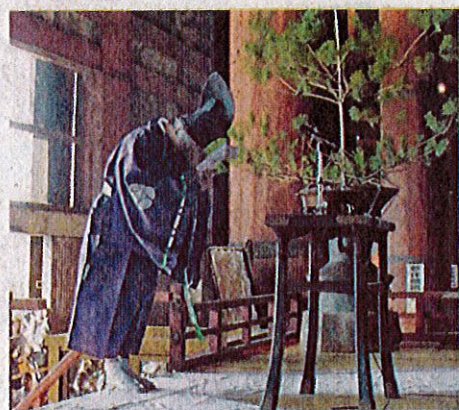
反射材のお守りについては通学用バッグに付けるように実演。ほかにも反射材のタスキやネックウオーマー、帽子、真横だけでなく進行方向にも対応した新しい自転車用反射材が暗闇でどのように目立つのかを紹介している。

吉田彩水さん(14)は「反射材用品の見え方がどうなのかを知って、学校のみんなが反射材をつけるようになってほしい」と話していた。

担当教員の家城千香さんは「多くの生徒に反射材の重要性を認識してもらい、家族や地域の人にも役立つことを伝える」と話している。ビデオは編集作業を経て、26日から毎日、昼食時間に放映することになっている。

東大寺に「お米送り」

上文殊、社北の住民献上



コシヒカリ4俵などの目録を奉納する地区代表者＝15日、奈良市の東大寺大仏殿

奈良時代に東大寺(奈良市)の荘園があったとき、秋の祭りにちなみ「お米送り」行事に取り組み福井市上文殊、社北両地区の住民が15日、同寺大仏殿を訪れ、丹精込めて育てたコシヒカリを献上した。お米送りは、上文殊地区のまちづくり組織が、小浜市の伝統行事「お水送り」を参考に1999年から取り組んでいる。社北地区では「まちづくり社北委員会」が中心となって2002年から行っている。

(川上桂)

奨学金制度の改善
JR福井駅で訴え
県労働者福祉協など
奨学金制度の改善に向

け県労働者福祉協議会と連合福井は20日、福井市のJR福井駅周辺で街頭活動を行った。写真。多くの市民に奨学金制度の実態を知ってもらおうと、両団体が初めて実施。この日は約20人が参加した。

参加者は拡声器を使って「経済的な理由から進学を諦めたり、(奨学金の返済が負担になって結婚や出産を難しくしている)」と説明し、無利子奨学金の拡大と給付型奨学金の実現を通行人に訴



奨学金の拡大と給付型奨学金の実現を通行人に訴

えた。

日本学生支援機構の調べでは、2014年度は日本の学生の約半分が奨学金を受給しているという。(西出昂平)

料理や遊びを通じて世界の文化知ろう

あす、県国際交流会館

世界の文化や暮らしを紹介する「福井国際フェスティバル」(福井新聞社後援)が23日午前10時から、福井市の県国際交流会館で開かれる。

県内の国際交流ボランティアなどをつくる運営委が毎年開いている。世界各国の料理や遊び、ファッションが楽しめるブースなどが並ぶ。日本航空の国際線パイロットの講演会(午前10時半)、世界の踊りや歌のステージなどもある。

入場無料(一部のプログラムは有料)。問い合わせ